



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

「イースターって何ですか？」と聞かれて困ったかもしれないね。それでも「イースター」というキリスト教のお祭りがあつた」と覚えてくれた人があつてもいいのならありがたい話ではあります。

イースターメッセージ 復活の主と共に日々を生きる

司祭 ステパノ 涌井 康福



活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

あ、それは大事な日ですね」と多くの人が納得してくれるのとは違い、復活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

意識はある。体も動く。それを普通は生きていくというのだからけれど、神から与えられた命というものはそれだけのものではないのではありませんか。そう考えると私だけでは

あ、それは大事な日ですね」と多くの人が納得してくれるのとは違い、復活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

ような気がしてなりません。だれもが経験したことのないこと、科学的にあり得ないことをすぐに信じていることができないのは仕方ありません。完全に命が尽きてしまった存在が再び甦ることはありません。それは常識とか科学とかいう前に、だれもが避けることができない厳然たる事実です。それを打ち破ったのはイエスという方おひとりだけです。そしてそれはキリストを信じる者たちにとって、いつかは死すべきわたしたちも、その復活の命へと招かれるという希望のしるしです。ここにこそキリスト教信仰の神髄があるはず。そう思いながらも、復活の出来事についていまだにあやふやな自分は何なのだろうと思いつめぐらしている。「待てよ。キリストの目、信仰の目から見たら自分は今生きているといえるのだろうか」という思いが湧いてきました。

以前、新聞の折り込みに「イースターセール」と大書されたスーパーマーケットのチラシが入ってきたことがあります。日曜日の礼拝後にも話題になり、「テレビのコマーシャルでもイースターセールやってましたよ」と、皆驚いた様子でした。もちろん復活日の宣伝をしていては、わけではなく、クリスマスセールと同様に客寄せのキャッチフレーズだったので、少しがっかりした。思ったほどの効果はなかったのかもしれない、翌年には何もなかったと記憶しています。店員さんはお客さんから「イースターって何ですか？」と聞かれて困ったかもしれないね。それでも「イースター」というキリスト教のお祭りがあつた」と覚えてくれた人があつてもいいのならありがたい話ではあります。

わたしたちはイースターについて、どのように伝えたり、説明したりしているのでしょうか。いろいろな方法があるでしょうが、そこで大切なキーワードは「イエス様の復活」ということになります。ところが「イエス様の復活を祝うのがクリスマスですよ」というと「あ

はあ、そうなんですね」と多くの人が納得してくれるのとは違い、復活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

なく、たくさんの方が限られた命を精いっぱい生きることができるよう様々な場面で神から力を与えられ、立ち上がらせていただいているのではないかと。永遠の命に至る完全な復活とは違うのかもしれないけれど、時には苦しみや悩みで生きながらも死んだようになっていた私たちに、再び希望と力を与えてくださったのはどなただったのか。私たちは今生きている中で、すでに復活の予兆を垣間見ているのではないかと思っております。

あ、それは大事な日ですね」と多くの人が納得してくれるのとは違い、復活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

あ、それは大事な日ですね」と多くの人が納得してくれるのとは違い、復活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

あ、それは大事な日ですね」と多くの人が納得してくれるのとは違い、復活というところにも反応が微妙です。「はあ、そうなんですね」という言葉の裏には（そんなことあるわけないでしょ）（教会はそんなありもしないことを信じているんだ）という気持ちが透けて見える

東北教区でのお働き、ありがとうございます 「夜景は残業でできている」

司祭 テモテ 遠藤 洋介



「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。マタイによる福音書18章20節」

私が東北教区に赴任したのは3年前です。当時は新型コロナウイルスが広がりはじめ、1年が過ぎたころでしたが、ちょうどその時東北でも感染拡大が起き、引越し前日にホテルで赴任先の八戸市では過去最高の1日当たりの感染者数が90人を超えたというニュースを見て、当時の神戸市よりも多くて驚いたことを覚えています。

新型コロナウイルスは重症化が怖く、高齢の方や基礎疾患のある方は特に命の危険が

あったり、後遺症などその症状自体もありますが、本当の怖さは、孤独にさせられることだと思えます。

教会の活動の多くは休止、感染拡大期には礼拝そのものも休止。感染すると人と直接の関わり自体ができなくなり、家族や普段接触のある人でも距離をとる必要がありました。新型コロナウイルスは私たちがそれぞれ孤独にさせる辛い病気でした。

私たちが普段祈る場として「教会」という言葉は本来、神さまの名によって人が集まることが意味されています。その意味で「教会」は決して建物の名称ではなく、さうらに言えば特定の場所を指すのではなく、信仰を共にする人々が集まり、神さまへの感謝と賛美を献げるその光景が「教会」という言葉の指していることだと思えます。もちろん、一人の祈りも時には必要です。他人に聞かれ

たくないときや自分のペースで神さまと向き合いたいときなど。しかし、共に祈りたいとき、そばで誰かに祈ってほしいとき、そんなときでもコロナウイルスは私たちがそれぞれ孤独の中で祈るようにしました。

2023年から徐々に感染対策が緩和され、礼拝休止もほとんどなくなりました。病院や施設も多少の制限はありますが、対面が許され、飲食を伴わない集会も徐々に再開してきました。昔のように礼拝後にうどんやカレーライスなどを囲む機会はかなり減っているかもしれませんが、共に集い、聖歌を歌い、祈り合

い、そして聖餐の恵みに与かることはできるようになりました。できなくなつてから初めてそれがどれほど喜ばしく大きな恵みで、ありがたいことなのかを知ることができました。まさに英語で聖餐を意味する「ユーカーリスト」という言葉の本質を肌で感じました。私は4月から東北教区出向の任を解かれ、神戸教区に戻ります。3年間と大変短い間ではありましたが、色々な方

と出会わせていただき、神戸教区では学べないことも学ばせていただきました。関わってくださったすべての方に深く感謝申し上げます。

東北教区に来て、色々な方に「神戸教区はどう？」と聞かれました。教区という大きな枠で見ると違いはたくさんあるかもしれませんが、前提として教区はそれぞれいくつかの教会から成っています。教区規模ではなく、何にしても教会単位であらゆる課題に臨む必要があります。そして教区ではなく、教会というもののさしで見たと、教区間の違いはそれほど感じませんで

した。どの教会に行っても同じように教会を、十字架を、祈りを大切にする信徒の集まりです。

そして教会はそれぞれ同じように悩みを持ち、日々悪戦苦闘しながらも、信徒お一人お一人の賜物と努力と信仰によって支えられています。どれほど大きなものであっても、元はだれからも知られていないような小さな働きから成っているのです。どこに置かれてもその小さな働き一つ一つに目を留めて、感謝を覚え、私もその働きの一つに加わっていただけたいと思います。

十和田湖畔施設活用グループから 2024年度十和田施設のご案内

開所式 4月27日(土)

施設清掃のあと、開所の祈りを献げ、ティタイムで再開の時を過ごします。

十和田「平和の祈り」・コンサート 8月10日(土)

今年から皆さんが集まりやすい土曜日に開催いたします。

秋祭り&閉所式 11月2日(土)

昨年同様、楽しい秋祭りにしたいと考えています。

詳細は各教会へお送りする案内をご覧ください。

「十和田湖畔ヴァイタルクラブ」への新規入会も募集中です。ご支援をお願いいたします。今年も十和田のシーズンが始まります。皆様、どうぞご利用ください。



北海道教区

クララ 吉谷かおる

「チーム北国」は新年、1月23日に全体ミーティング(オンライン)を開催しました。新体制の「チーム北国」はコア・メンバーに加え、4つのセクションを設けてメンバーを拡大し、「宣教協働」10名、「広報」7名、「組織」4名、「財政」5名の編成となっています。この日は4つのセクションに参加するメンバー全員が一堂に会し(画面上ですが)、「チーム北国」発足に至るまでの経緯、昨年の活動内容、各セクションが2028年までに取り組む課題と時期などについて説明を聞き、共有し

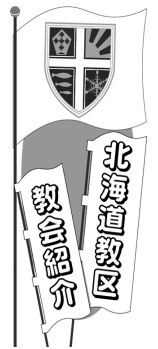
ました。そして、昨年11月の両教区教会会で可決された「ミッション・ステートメント」の読み合わせを行ったのち、参加者それぞれが率直な感想を伝え合いました。

最後に大町信也司祭から、セクションごとに①2028年までのロードマップを10月までに考えてほしい②今年度の計画と予算を作成し3月に報告してほしい③対面でのミーティングを1回は実施してほしい、との要望が伝えられ、この教区再編の働きを聖霊の導きを信じて進めていきたいという笹森田鶴主教のお話をもって閉会となりました。国土の40%を占める北海道と東北の広い面積の中で、各々が出会うことにより、違う視点、歴史観、見識が与えられる恵みの時がもう始まっています。各セクションでは、それぞれ月一回程度のオンライン・ミーティングを実施して活動を進めています。今後はその進捗状況のほか、行事などでの教区間の交流についてもお知らせしていきます。

りんごの香りする音江山のふもと、長大な石狩川のふところの、石狩大平野の奥座敷、百万石の米どころが深川です。教会は1898年誕生、126年の歴史です。教会は屯田兵信徒から成長、以来魂を守る神から派遣された神の屯田兵として、全信徒は活躍してまいりました。受洗者は800人、現在の信徒は50名です。教会は126年間献身的なすべての信徒によって支えられ、この地で信仰の灯をともし続けてきました。これからももし続けることでしょう。



深川聖三一教会



主教コラム



主のご復活を慶びお祝い申し上げます。2月6日、

8日、主教会が沖繩教区名護聖ヨ

ハネ教会で開かれました。本州最北端の青森から遙か海を越えて南国那覇空港に降り立ちますと、空気が熱くて汗がにじみ出てきました。主教会の2日目午後、ハンセン病国立療養所沖繩愛楽園を訪問し、ガイドを受けて資料展示室を見学、上原榮正主教の車で園内を案内していただきました。現在入所者は95名で平均年齢86歳だそうです。その後夕の礼拝前まで、祈りの家教会で信徒さんたちと懇談の時間を持ち楽しく歓談しました。青森市にある国立療養所松丘保養園に暮らしの松丘聖ミカエル教会信徒が、昨年12月と本年1月、続けざまに天に召されました。山形県出身98歳のプリスカ木村朝代さんと福島県出身園内最長寿105歳のマーガレット千葉夏代さんです。お二人とも老衰で、

自室にて安らかに天の主の御許に旅立ちました。葬送式には動ける殆どの入所者と職員の方々が施設のホールに集わられて見送られ、しみじみとした平安を感じました。コロナ禍で保養園は厳しい入構制限がかかり、私は4年間入室出来ずにおりましたが、お二人にはどこかでお会いしてたかもしれません。30年程前、教区教役者研修会で当時特任聖職執事ヨハネ福島政美さんや信徒たちと礼拝をして懇親会を持ちましたから、その席にお二人がいらしたはず。去年9月、藤崎陸安さんが多摩全生園にて80歳で逝去されました。私と同じ秋田県出身で、20年程前秋田聖救主教会の大斎節講演会で講師だったのを昨日のように思い出しました。ミカエル教会信徒は、とうとうお一人になってしまいました。現在入所者は34名で平均年齢89歳です。神戸教区から出向され、3年間お働きくださったテモテ遠藤洋介司祭のご奉仕に感謝し、新任地での更なるご活躍を祈念いたします。主の平和

ハラスメント防止・対策委員会主催研修会報告

ハラスメント防止・対策委員 クリステイナ 多田 愛

2月12日(月・祝)、仙台基督教会において、対面とインターネット同時配信との両形式で、「あなたの心の中を覗いてみませんか?」と題し、教役者を含め教会に集う人々全てを対象とした、ハラスメントについて理解を深めるための研修会を開催しました。ハラスメント防止・対策委員会設置に向けて動き始めてからおよそ10年の中で、委員や教役者を対象とした研修会は何度か行われましたが、全信徒へ向けたものは今回が初開催となりました。実際にハラスメント事案が発生した場合に、対応できる体制も無いままに啓発活動を進めるわけにはいかない、という当委員会としての判断のもと、まずはその体制構築を最優先事項としてきたためでした。

前述のような経緯でようやく開催に漕ぎ着けた今回の研修会は、東北教区ハラスメント防止・対策委員会の顧問であり、かつ実際に東北教区内でハラスメント被害を訴えることが生じた場合に、外部相談員を担ってくださる大村哲夫氏(臨床心理士、公認心理師、上智大学グリーンフケア研究所特任教授)による講話から始まりました。その内容は、具体的なハラスメント事例を取り上げて解説をするようなものではなく、「ハラスメントが発生する心理的機序とその対応策」ということで、ハラスメント加害者の思考ないしは心の根源にあるものの解説が主軸でした。今回の研修会は全信徒向けではありませんでしたが、講話は主に教会委員等の「有力信徒」目線に焦点を当てたものでした。そのためか、講話後の分かち合い等を行う中で感じたのは、「心理的機序」の部分については誰もが腑に落ちたけれども、「対応策」の部分については若干の戸惑いを覚えた参加者も少なくない、ということでした。

しかしながら、教会でもハラスメントは発生するのだという大前提のもと、発生しても適切に対応して解決まで漕ぎ着けることができる自浄作用を持つているのが「健全な教会」の姿であるという、講師の経験や裏付けに基づいた見解自体には、大多数の参加者が納得したのではないでしょうか。

今回の研修会は、できるだけ気軽に参加できるように、所要時間を必要最小限に設定しましたが、内容の充実度が高かっただけに、よい意味で物足りなさを感じたほどでした。それも次回への参加意欲へと繋がったのではないかと期待しています。



人間に光あれ

各教区人権担当者会に参加して

東北教区人権担当 司祭 ドミニコ 李 贊熙

去る2024年2月26日(月)〜27日(火)、各教区人権担当者会が大坂城南キリスト教会を会場に開催され、各教区人権担当者および管区人権問題担当者が参加しました。私にとっては初めての人権担当者会でしたので、緊張感と期待感を持って参加しました。

1日目は開会の祈り後、セッションとして各教区担当者から各教区活動に関して報告や質問の時間を持ちました。入管問題、原発、ハラスメント、貧困問題などが話題になりました。夕食後セッション2の時間には、明治から大正時代にかけての被差別部落に住む人々の苦しみや悩みを描いた映画「橋のない川」を鑑賞しました。2日目はJR鶴橋駅に集まってJR掖上駅に到着した後、ガイドボランティアによる「人権のふるさと・水平社博物館」と周辺をフィールド学習する日程でした。ガイドボランティアから人間の尊厳と平等を求めて

声を上げた「全国水平社」の説明がありました。「全国水平社」は「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という理念をもって部落差別撤廃、自由と平等、人権の確立をめざす部落解放運動として1922年3月3日創立されました。説明を聞いた後、昨日見た映画の場面を思い起こしながら「水平社博物館」と周辺を回るフィールド学習に参加することができました。

今回の各教区人権担当者会を通して、私たちが住んでいる社会には入管問題、ハラスメント、原発、貧困、人種、性など様々な差別が解決できず続いていることをわかりました。このような差別は社会だけではなく、今私たちが信仰生活をしている教会の中にも様々な形で起こっているかもしれません。解決するためには、私たちみんな違う存在として「違う」ことを受け止める、相手を尊敬することが大切だと思います。



シリーズ
わたしの道の光

米沢聖ヨハネ教会
ルツ 小貫 尚子



いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙 5:16-18)

ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵略のニュース。今、子どもたちの多くの犠牲に心が痛みます。一日も早く平和な日々に戻りますように祈りたいと思います。

私は日本敗戦の年の1月に、中国の旧満州国大連で生まれました。家族は兄と私を連れて、内地へ引き揚げてきました。父母は、その当時のことをよく話してくれました。中国人を差別する日本人がいたこと、皆同じ人間なのに外見や身なりで差別してはいけない

いと折に触れて聞かされていきました。引き揚げの佐世保から函館までの列車は超満員で、身動きできない状態でしたが、母は「東北の人はとても親切で、自分たちの食べ物を皆に分けてくれたり、世話をしてくれました。」といつも話していました。その東北に住み、50年が経ちました。

「神の前に皆平等である。」と教えていただき、米沢聖ヨハネ教会で洗礼・堅信(サムエル今井正道主教から)を受けました。教会の牧師先生・信徒の方々の祈りに支えられ、交わりの中で少しずつ導かれてきました。

ルツたけさんは、「婚家では教会に行くことに反対され、教会に行きたくて、エプロンを掛けて、買い物に行つてきますと言いつつ礼拝に通つた。」と話してくださいました。カサリンとしさんは、夫君の介護をなさった後、ご自分も病気のため体が不自由になり、礼拝出席もままならなくなり、礼拝出席が「教会に来たくて、来たくて祈っていた。」と話していました。また、お

孫さんに「おばあちゃん、いつも祈っているけれど、病気が治るように祈っているの?」と問われ、「病気に耐える力をお与えくださいと祈っているよ。」と答えたと話していました。

パウリン和子さんは、戦後信徒が一人だけの時に山形の教会に通つて、洗礼・按手を受けられました。マリア・マグダレン神崎ゆき伝道師が米沢に赴任、定住されるまで、長い期間礼拝を守つてこられました。

103歳で一昨年亡くなられたエステルすゑさんは、病床の夫君を信仰に導き、看取られた後しばらく一人暮らしを続け、100歳になるまで礼拝に出席されました。「いろいろあったけれど、私の生涯は感謝あるのみ。」と話しておられました。

皆様の姿からは、主が共にいてくださる喜びが伝わってきます。礼拝堂に入ると、安らかな、落ち着いた雰囲気を感じるの、信仰の先輩の祈りが、すみずみまで行きわたっているからでしょう。



(リーダー 浅原 和裕)

東日本大震災被災者
支援プロジェクト報告

被災者支援の水曜喫茶、2月は28日に10名の参加で行われました。いつものメンバーが毎回心待ちにして、必ず参加してください。

当日の天気は晴朗、でも強風なり、でした。皆さん風にも負けず元気で参加されました。写真は抹茶を待つ間のダベリング風景です。メンバーのお立てする抹茶は格別のことです。この一時、みなさんの心の内に平安があることを祈りつつ、解散しました。各方面からの差し入れいただき感謝です。

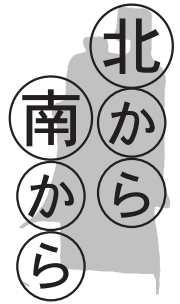
常置委員会報告
(第4回・2月26日)

報告事項

▼常置委員長報告…チーム北国の現況。新庄の基本財産売買契約成立と、鶴岡・台原(主教邸)の基本財産処分関係事項、西の平の解体整地見積りについて。▼執行機関報告…能登半島地震支援について。青少年活動推進グループ主催「青年キャンプ」呼びかけについて、および「教役者・聖職候補生後援会と奉仕職養成グループの合併」について検討。「研学資金」「宣教活動援助金」申請の取扱いに関する議論について。

協議事項

▼「聖職候補生規程」「東日本大震災被災者支援プロジェクト規程」の改正案について、これを承認。▼北海道教区より、同教区が10月に開催する「北海道教区宣教協議会」の準備メンバーに東北教区からも参加してほしい旨の要請があり、渡部拓司祭と中村久美子氏2名への打診を承認。▼主教邸の解体・整地業者を選定し、これを承認。



むつ会衆

12月26日に市内の一信徒宅で、むつ会衆クリスマス家庭集会が行われました。むつ市は青森市から車で2時間ほどの所にありますが、冬の季節にありがちな路面が凍結することもなく、順調に道を進みました。

むつの信徒が3人と青森聖アンデレ教会からの3人が参加しました。そして新型コロナウイルス感染拡大後、初めての聖餐式を行うことができました。

今後このような集まりが定期的に行われるように願います。

能代キリスト教会

宣教を開始してから110年を迎える今年。2月11日、堅信受領者総会を開催した。

その中で、前年度から教区分担金納付について非常に苦勞していること、教区宣教強

化資金への返済も滞っていることが確認された。これらのことを受けて、今年度はどのように教会財政を立て直していくかについて、協議が集中した。そして先ずは、各自の献金について出来る範囲で上積みすること、その他、各自で出来る働きを献げだしていくことを申し合わせた。

それでも、今後の財政については困難であることが考えられるため、より抜本的な解決策を、場合によっては教区とも協力しながら模索していく必要もあるのではないかとこの話しにもなった。

このことはもちろん、一朝一夕でどうこうなるものではないかもしれないが、希望を捨てずに、祈りと共に取り組んでいきたい。

小名浜聖テモテ教会

主の御名を賛美します。

まだまだ寒い日が続きますが、季節の花が咲き始め、春の訪れを感じさせる今日この頃です。

聖堂に隣接されているヤコブ館の床の一部が、老朽化に

より、昨年、修繕されました。これからも皆で大切に使用していきたいと思えます。

私たちの教会は、以前は十数名の信徒がおりましたが、数年前に大切な信仰のお仲間を神様のみ許に送りしました。また、高齢化や、体調を崩される方も多く、年々減少傾向にあります。たとえ寂しくても

「一人、また三人が私の名によつて集まるところには、私もその中にいるのである。」というイエス様のみ言葉を信じて、これからも皆で心を合わせて神様の御用のために用いられたいと思えます。

主に感謝

◇◇◇◇◇
4月21日は「神学校のため」の主日です。神学校の働きに携わる方々、またそこで学ばれる方々を覚えてお祈りください。

訂正

3月号1面、本文6行目の記載に誤りがありました。お詫びし、訂正いたします。

誤 「1984年に」
正 「1948年に」

4月逝去者記念聖餐式
4月10日(水)午前10時
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 ヨハネ 落合 吉之助

司祭 稲垣 陽一郎

司祭 1949年4月1日逝去

宣教師 Miss Gladys V. Gray

1978年4月2日逝去

主教 John McKim

1936年4月4日逝去

司祭 田井 正一

1927年4月6日逝去

司祭 ヨシユア 大野 敏之

1971年4月8日逝去

司祭 松田 輝三雄

1977年4月10日逝去

伝道師 織間 小太郎

1934年4月15日逝去

宣教師 Miss Georgie Sutton

1941年4月15日逝去

司祭 イスラエル・ヤコブ 加藤 泰治

1970年4月16日逝去

執事 北沢 繁松

1934年4月21日逝去

司祭 森 湜

1934年4月22日逝去

司祭 早川 喜四郎

1943年4月23日逝去

伝道師 マリヤン・ダレン 神崎 ゆき

2007年4月23日逝去

執事 Dorothea V. Carlson

1928年4月27日逝去

司祭 小林 彦五郎

1944年4月29日逝去

司祭 Robert W. Andrews

1962年4月29日逝去

伝道師 マリア 鈴木 八重

1991年4月29日逝去

宣教師 Mrs. Lora Gladys Clifford

1929年4月30日逝去

司祭 John Gage Waller

1943年4月30日逝去

2023年日本聖公会
宣教協議会からの呼びかけ



2023年11月に開催された宣教協議会からの「呼びかけ」が公開されました。これからの日本聖公会の歩みの上で大切にしていきたいものです。ぜひご覧ください。東北教区での用い方は現在検討中です。